移り住む
益子案内

Enjoy!

2019

ましこ里山手帖

MASHIKO SATOYAMA GUIDEBOOK

益子で描く、家族の風景

KOSODATE TOWN

ほどよい益子へ、移り住む

山と里の距離感も、
宇都宮や東京への距離感も、
自然と、歴史と、文化的な環境も
益子は、ほどよい心地よさがある町。

家族で、夫婦で、親子で、
そしてなにより、
わたしが「わたし」を楽しめる町。

益子で描く、家族の風景。

益子町の姿
ABOUT MASHIKO TOWN

ひと
2019年1月1日現在の人口は、22,366人、世帯数は7,860世帯で、ほどよい規模の町。陶芸を志す移住者を昔から受け入れてきた積み重ねもあり、開放的で自由な空気に満ちた土地柄です。

気候
真夏の最高気温は36℃以上、真冬の最低気温は-6℃以下となることもありますが、降雪は年に2、3回程度で、一年を通して過ごしやすい気候です。

観光
江戸時代末期に端を発する益子焼の産地として、また、1924年に益子に移り住んだ陶芸家・濱田庄司も担い手の一人であった「民藝運動」の拠点として世界的にも知られています。多くの来場者でにぎわう春と秋の陶器市、7月の祇園祭、2016年に開業した「道の駅ましこ」でもさまざまな催しが開かれ、一年を通して活気あふれる町です。

文化
陶芸以外でも、200年も続く藍染工房があり、木工や革、ガラスなど、さまざまな工芸の作り手が移り住み、ものづくりの文化が暮らしの基礎にあります。伝統芸能においても、北部地域の獅子舞、各地の太々神楽、南部地域の雅楽などが継承され、お囃子も盛んです。

農業
一年を通して多彩な作物が作られ、麦が黄金に実る5月末、夏蕎麦、秋蕎麦の白い花がそこかしこに広がる6月や9月には、美しい田園風景が各地に広がります。イチゴ・ブドウ・ブルーベリー・ナシ・リンゴ・クリなど果樹栽培もさかんで、果物狩りも楽しめます。

自然
雨巻山（あまままさん）や高舘山（たかだてやま）などの低山と、なだらかな丘陵地帯、川沿いの低地…。多彩な表情をもつ大地の上で、さまざまな鳥や昆虫、山野草などが共存しています。

歴史
縄文時代以前から人が住んでいた土地です。国指定文化財にもなっている中世の寺院や、古墳群なども残り、地域の人たちの誇りとなっています。

family landscape

家族の風景

1

須田ファミリー

オンとオフの切り替えを心地よく 週末の豊かな楽しみを家族でつくる

会社員の須田幸誉さん、帽子作家の絵美さんは、宇都宮市内から移り住んで7年目。9歳の里莖花ちゃん、3歳の陽菜莖ちゃん、そして10歳の愛犬クーちゃんと。

家族のお気に入りの公園のひとつ「栃木県立自然公園・益子の森」。「都市部に比べて休日でも人が多くなく、自然の中でゆったりと過ごせますね」と絵美さん。

東京、世界各国、宇都宮、そして益子へ移り住む物語

宇都宮市出身の須田さんが、奥様の絵美さんと知り合ったのは、勤務先の原宿の有名古着店。上司と部下という立場で出会い、やがて結婚。バックパッカーとして、新婚旅行を兼ねた世界旅行へと出かけます。一年近くにも及ぶその旅で、タイ北部の小さな村に立ち寄りました。手工芸の作り手や職人や小さなパン屋が暮らす地域で、絵美さんとともにとても気に入ったそう。その後、宇都宮に戻り、益子へ遊びに訪れた際に、その村で感じた自分の感覚を思い出したそうです。居心地の良さと空気感が似ている！と。

その後、宇都宮市東部にある会社に転職した須田さんは、市内で暮らしながら、絵美さんと一緒に益子に移り住むための物件探しを始め、ほどよい大きさの庭付き中古住宅に出会います。自分たちで手を入れてリフォームすることを前提に購入したのが、2010年、長女の里莖花ちゃんが2歳の時でした。

宇都宮に住んでいた頃は、朝夕の通勤渋滞に悩まされていた須田さん。今は会社まで車で25分の距離をストレス無しで行き来する毎日。朝は、光が差す那須や日光の山をはるか正面に見ながら、帰りは、益子が近づくと次第に緑が増えてくる風景に心を和ませながら、家族の時間へと、シフトチェンジしていきます。

今度の週末、どこに出かけようか？

絵美さんは、二十歳で手編みニットの帽子ブランド「センス・オブ・ワンダー」を立ち上げ、今は、オンライン通販での販売と、クラフトマーケットなどへの出店を続けています。益子や近隣の町で開催されるイベントへの出店は、必ず家族みんなで、週末のレジャーを兼ねて出かけます。出店するイベントでは、時々、須田さんも「出演」します。須田さんが参加している、益子を拠点に活動するアフリカンドラム（ジャンベ）のチーム「ジェベナッツ」がライブに呼ばれることがあるのです。

ママがつくる帽子のお店を家族で応援し、時々、会場内でパパもライブに出演。子どもたちも、他の参加者の子どもたちと会場を駆け回って遊んだり、お手伝いをしたり…。出店が無い週末は都内に出かけたり、友人家族と一緒に過ごしたり。

益子に来てから出会った陶芸家や農家など、ものづくりの友人たちとの繋がりで日々充実していると、お二人は語ります。

移り住むおすすめポイント 1

週末の家族時間がゆっくり楽しめる！

to school

学校へは歩いて30分。お気に入りの通学用の帽子は、家族で都内に出かけた時に、自分で選んで買ったもの。5人の通学班は、全員男子だからあんまり会話が続かないそうです(笑)。

beat the rhythm

須田さん父娘の共通の趣味は、アフリカンドラム。里莖花ちゃんも専用のジャンベを手に入れて教わっています。

knitting time

「出店や注文が重なっている時期は、平日は子どもたちを送り出したらひたすら編んでます」と苦笑いする絵美さんの膝には、そんなお母さんを労わるように、みんなのアイドル、クーちゃんが。

お姉ちゃんに髪を整えてもらう妹の陽菜莖ちゃん。町内の幼稚園に通う年少さんです。山登りなど自然の中で出かけることが多い園の行事も益子ならでは。

リビングと庭をつなぐテラスで。中古住宅の購入は、少しずつ家族の成長や変化に合わせてリフォームしていく楽しみも手に入ります。

Suda Family SATOYAMA NOTEBOOK

Our booth at Marche

Knit hat

1つ1つがすべて絵美さんの手作り。同じものは1つもありません。「いまは、娘たちも一緒に週末は行動しているけれど、これから成長につれて、どうなんでしょうね。そろそろお姉ちゃんが反抗期かな？」と話す絵美さんの横で、里莖花ちゃんが「えーそうなの？」と笑います。

2018年9月には、町内で開催された「土祭（ひじまい）」というお祭りのステージで、里莖花ちゃんもデビューしました。

at Hijisai

To play the djembe

都内で暮らしていた頃から、パーカッションでバンド活動をしていた須田さん。いまは、トラディショナルなアフリカンドラムを叩きます。

週末の予定 Memo

2018年9月の場合

7日　家族で都内へお出かけ
原宿、下北沢へ

14日　鹿沼市へ
出会いの森マルシェ
アフリカンライブに出演＆
マルシェに出店

21日　茨城県東海村へ
大空マルシェに出店

28日　宇都宮市ロマンチック村へ
百人展に出店

住む人も楽しめる 作り手の町ならではの 主なクラフト市やマーケット

陶器市
春のGWと11月初旬に数日間に渡り城内や道祖土（さやど）地区を中心に開催され、販売店だけでなく町内外から500を超える作家テントが出店して賑わう歴史あるイベントです。

道の駅ましこ「益子朝市」
道の駅の芝生広場を会場に毎月第3日曜日に開催されている朝市で、益子と近隣の農産物や加工品だけでなく、手工芸品も販売されています。飲食ブースも人気です。

益子さんぽ市 クラフト＆ライブ
9月の連休に益子焼窯元共販センター駐車場で開催されるイベントで、多彩なジャンルの音楽ライブや木工、布小物などのクラフト作家が出店するマーケットです。

青空市
安心な食をテーマにお母さんたちが始めた市で、40年近い歴史があります。つかもと広場で毎月第2土曜日の午後、地場野菜やパン、豆腐や海産物、古本や古着も並びます。

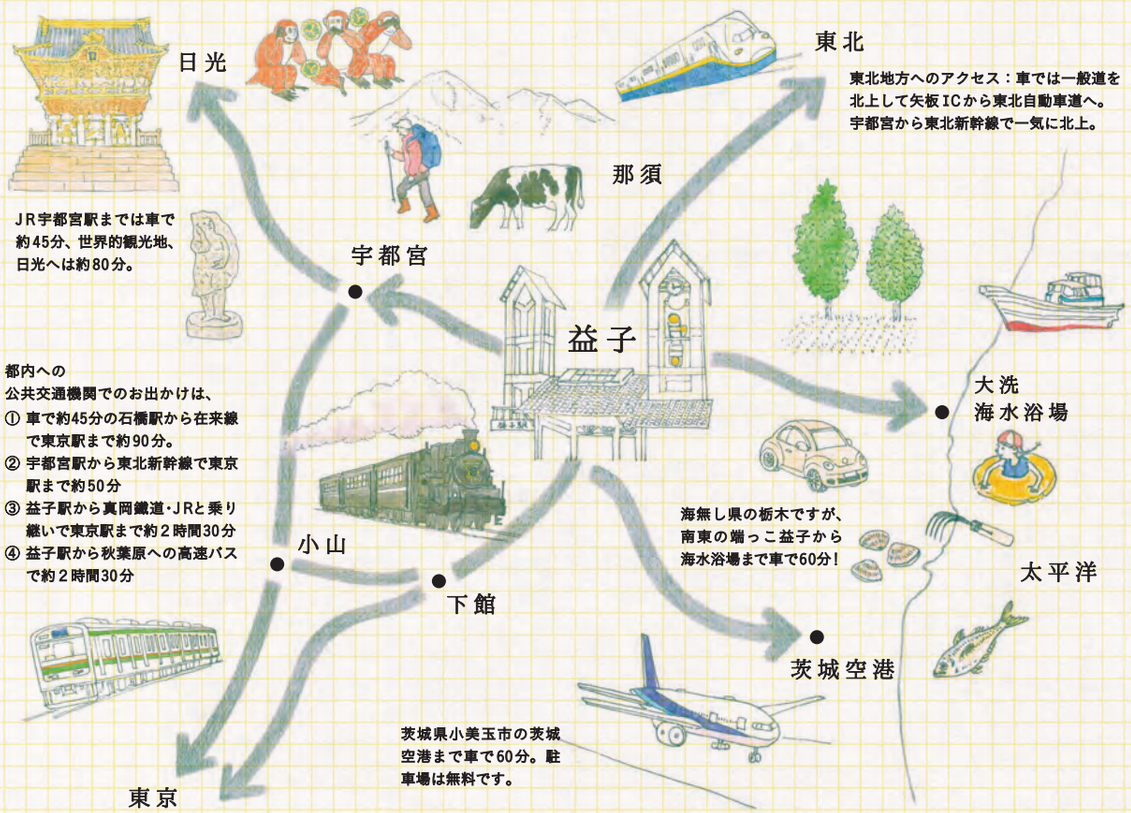
益子夜市
8月の夜に一夜限り、陶器店が並ぶ城内坂を歩行者天国にして開催されます。須田さんが所属するジェベナッツも参加するライブや益子の人気店も特別メニューで出店する飲食ブースで賑わいます。

移り住むおすすめポイント 2

近隣地区への渋滞なしの通勤！

通勤だけではなく、山へ海へ、都内へ。お出かけも楽しめるアクセスの良さ！

例えば都内へも、須田ファミリーは車で出かけています。高速で約2時間、一般道で約3時間。都内に着いたら、代々木公園の地下駐車場などを利用するそうです。真岡ICや上三川ICが近く、高速に乗るまでに渋滞がないことが助かりますね。



益子なら、理想の住まいが実現できる

総務省のデータなどをもとに「住宅」「通勤」事情を紹介します。

持ち家率
益子町 **87.08%** ＞ 栃木県内市平均 72.61%
【出典】総務省「平成27年国勢調査」

住宅地地価
益子町 **19,900円** ＞ 栃木県内市平均 27,064円
【出典】国土交通省「平成29年都道府県地価調査」住宅地地点価格の平均住宅地地点価格の平均

1住宅当たり延べ面積
益子町 **136.61㎡** ＞ 栃木県内市平均 115.34㎡
【出典】総務省「平成25年住宅・土地統計調査」

1か月あたり家賃
益子町 **38,110円** ＞ 栃木県内市平均 43,574円
【出典】総務省「平成25年住宅・土地統計調査」

益子に住み、町外へ通勤する人
平成27年 **58.3%** ↖ 平成22年 56.3% ↖ 平成17年 51.2% ↖ 平成12年 46.1%
【出典】総務省「平成27年国勢調査」

益子に移り住み、朝夕の渋滞が少ないルートで近隣の都市部へ通勤する生活を選ぶ人が年々増加しています。地価も安く、ゆったりとした家が持ちやすい益子。アパートや借家の家賃も安めなので、まずは益子に移り住み、借家暮らしをしながら資金をためて、家族にあった場所を選び、家族の風景をつくりはじめる。そんな選択はいかがでしょうか。

Family landscape

家族の風景

2

高松ファミリー

地域の人の繋がりに支えられ山の麓で子育てしながらお店を営む

低山登山の人気スポット、雨巻山の麓で暮らす高松泰さんは、2010年に東京からこの地に移り住み、奥様の直子さん、看板娘の福ちゃんと、石窯で焼くナポリ風ピッツァのお店を営んでいます。

直子さんも、結婚後に県外へピッツァ修行に出かけ、いまでは平日の厨房を任されています。保育園がお休みの時は、年少さんの福ちゃんの相手をしながら仕事をすることも。

どこでもできる仕事なら自然が豊かな土地で

益子の南東部、茨城県との境にある雨巻山の麓。「おいしいピッツァのお店の主人」として知られる高松泰さん。実は、もう20年以上前に、アジア各国やアメリカ放浪／滞在ののち、瞑想のための音楽やいわゆるヒーリングミュージンクを日本に最初に紹介した人でもあります。都内で通販専門のCDショップを立ち上げ、さまざまな形態で長く活動したのち、縁があって2010年に益子に移り住みました。通信販売の会社の拠点は、インターネットに繋がり、宅配業者と取引ができる土地ならば、都会にこだわる必要がない。できるだけ人里から離れて自然の中で暮らしたい。そんな考えで、この土地を選びました。

移り住むに当たって、最初に会社の事務所と自宅を作りました。若い頃は都内の有名イタリアンレストランで働いていた経歴もある高松さんは、ほどなく敷地の中にピッツァ窯と小さな小屋をつくります。自分と友人たちのためにピッツァを焼いて楽しもう、と。窯がある厨房だけが屋根と壁に囲まれ、カウンター席の向こうには壁がなく益子の森が広がっていました。

移り住むおすすめポイント 3

観光の町だから、飲食店で起業しやすい！

黒板は、時々、福ちゃんのお絵かき場にもなっています（写真右）。週末の営業が終わると、スタッフも一緒に、まかないの食事タイムが始まり、ゆるやかな時間が流れます（写真下）。

with Staff

スタッフに、ピッツァの仕込みから焼き上げまで、指導しながら厨房を切り盛り。ピッツァ窯は、陶芸の登り窯を作る職人さんに依頼して作ったものです。

ラブラドールレトリーバーの徳次郎くん（8歳）も、大切な家族の一員。大型犬の散歩にも恵まれた環境が家のまわりに広がります。

today's menu

黒板のメニューを描くのは直子さんの担当。定番のメニュー以外に、益子や近隣の季節の果物や野菜を使った旬の特別メニューも登場します。

繋がり広がる、人との関係性に感謝して

そんなスタートをきったお店も口コミでお客さんが増え、少しずつ建物も増築を重ねてきています。

直子さんは、都内で商社に勤めた後にワーキングホリデー制度を利用して海外へ。その後、web制作関係の仕事を10年ほど続けていました。「健やかに生きること」を考え始めて、「食」に関心を広げ、益子に移り住みます。そして高松さんとの出会いがありました。ふたりの育児の分担は、保育園への朝の送りが高松さん、お迎えが直子さん。

「決め事はそれくらいで、あとは臨機応変にやっています。週末は友人家族に娘を預かってもらうこともあって、助かってます」と直子さん。お店をやることで、たくさんの出会いをもらっていると笑顔で話してくれました。「益子に来てからは、同じ人ともいろんな関係性で繋がっているのも楽しいですよ。お店に来てくれるお客さんの中にも、自分のお店をやっている人がいて、そのお店に私もお客として行くことがあったり、保育園のママ友でもある人がいたり。波長が合えば、すぐに交流が始まるところも、開放的な土地、益子ならではのことだと思います」。

Takamatsu Family SATOYAMA NOTEBOOK

直子ママの野菜レシピ

磯部焼き風大根もち

〈材料６個分〉

- 大根　20cm位
- 小ねぎ　２本
- A
  - 片栗粉　40g
  - 薄力粉　40g
  - 顆粒和風だし　小さじ１
- お酒　大さじ１
- B
  - しょうゆ大さじ１
  - みりん大さじ１
- のり　１枚

【作り方】

1. 大根は皮をむいてすりおろし、ざるにいれて水気を少し残す程度に水切りする。
   小ねぎは小口切りにする。
2. ボウルに1とAを入れてこね、6等分にして丸める。
3. フライパンに2と油を入れ、両面に焼き色がつくまで焼いたら、お酒を入れて蓋をして蒸し焼きにする。
   火が通ったらBを全体に絡める。
4. 3にのりをまいたら完成！
   お好きな素材を入れてもおいしい！

お店の料理には、近隣の新鮮な野菜がふんだんに使われます。野菜の仕入れは、直子さんの担当。自ら農家さんの畑に入り野菜を選んで収穫させてもらっています。

畑へは、軽トラックで。田舎暮らしでは車の運転は不可欠。直子さんも徐々に慣れてきたそうです。荷台にたくさんの収穫した野菜を積んで帰ります。

道の駅ましこへもよく買い出しに出かけます。益子在住の絵本作家、いわむらかずおさんの絵が描かれたサインの下に新鮮な地場野菜が並びます。

益子の小さな隣人たち 高松家のまわりの生き物

高松さんは、ヒーリングミュージック専門の通販サイトの運営も行い、自らも鳥の声や虫の声など自然の音のフィールドレコーディングなどを楽しんでいます。雨巻山近辺で確認できた鳥や生き物たちを教えてもらいました。

鳥

夜になると山の方からフクロウの低い声が聞こえてくるそうです。古代の人が鵺（ぬえ）と呼んだ、主に深夜にか細い声で「ヒィー」と鳴く、トラツグミの声やキツツキの鳴き声も聞こえてくることがあるそうです。

昆虫

夏から秋にかけては、ツクツクホウシやヒグラシ、コオロギなどが辺りでは声を響かせます。登山道に沿う沢では、6月から7月にかけて、ゲンジ・ヘイケのホタルが飛びかい、大発生の年はお店の中まで飛んでくるそうです。

小動物

タヌキやイタチ、ノウサギも住んでいるようです。栃木県の北部のようにシカやサルの害はありませんが、イノシシは益子でも出没していて、町や農家さんたちで獣害対策に取り組んでいます。

移り住むおすすめポイント 4

自然の中でのびのび子育て！

赤ちゃんもママも、地域の仲間のサポートで登山を楽しんでいます

子育て中でも子どもと一緒に山登りを楽しみたい。そんなママたちを、地域の頼りになる山を愛するシニアの友人たちが「赤ちゃん登山」と名付けてサポート中！

2015

福ちゃんの初めての山登り体験は、１歳になる前の秋。自宅からすぐの三登谷山（みつとやさん）へ、ママの背中に揺られて。

2016

２歳の秋には、親子３人で仲間と一緒に栃木県の北部、那須岳へ。時々、ほんの少し歩いては、ママの背中に。

2018

３歳の春には、茨城県宝篋山（ほうきょうざん）まで遠征。自分の足でしっかりと歩いて登ります。パパたちはお仕事で参加できなくても、サポートしあって安心です！

三登谷山、雨巻山のマップ

雨巻山は標高533m、三登谷山は433mと低い山ですが、稜線を歩くコースや、沢沿いのコース、それから「猪転（ししころ）げ坂」と名付けられた九十九折の斜面など、バラエティに富んだ山歩きが楽しめます。ボランティアの人たちの手で登山道や標識が整備されているので、子どもからお年寄りまでが山歩きを楽しめます。

スモールビジネスも応援 益子の起業やカフェ事情

高松ファミリーのように飲食店などで起業する場合に、どんな助成制度を利用できるのか、一例を紹介します。

益子町起業支援補助金

町では、町内において起業する個人や法人に対して、その経費を一部支援する取り組みを行っています。新規起業準備補助金として、

限度額 **100万円**
（初期投資経費の1/3以内）。

事業所賃貸料補助金として、

限度額 **72万円**
（家賃の1/2以内、限度３万円／月、24ヶ月以内）があります。

お問い合わせ：観光商工課　商工係　☎0285-72-8845

小さなまちでもカフェめぐりが楽しめる

カフェのまち　ましこ

総数 **48** 店舗

エリア別

益子	28	田野	4
大羽	7	七井	4
塙	5		

2018　益子町発行「まし子さんとめぐるましこのCafe」